

番号	課名
D - 1	都市デザイン課

事務事業名	港湾整備推進事業		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-38	港湾の整備と活用	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	大分県により進められている臼杵港の整備を推進し、人流、物流、防災、憩いの場の機能を強化する。		
	関連施策名(施策コード)	-		

事業内容(経緯)	県事業に対する事業費の一部を負担します。港湾整備は新しい2箇所のフェリーバースの計画のうち、1箇所分の負担は令和3年度までで完了しました。令和4年度からは2箇所目の整備にも着手されており、事業全体の推進を図っています。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	第2期事業進捗率	工事進捗率(交付金事業費ベース)	%	-	-	6	19	34
②	全体事業進捗率	工事進捗率(交付金事業費ベース)	%	61	67	69	73	78
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	フェリー乗降1台当たりの事業コスト				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	負担金(円)÷フェリー乗降台数(台)			
	46,875	99,063	内容	県工事負担金	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	地方債		485	829	250	495	514

事業対象	市民、旅行者、事業者	今年度の成果	県による事業は、新埠頭エリアの地盤改良など、また既存の埠頭エリアでは舗装補修やフェリー可動橋の補修などが行われました。				
------	------------	--------	---	--	--	--	--

成果指標	指標名	フェリー乗降台数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	港湾統計調査の数値を引用		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	フェリー利用者の動向により事業の効果を図る	千台/年	175	180	188	201	235

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	事業は港内の安全性の確保や、港を利用する船舶の大型化などに対応するものであり、有効性は高いと言えます。県の事業費の一部を負担するものであるため、県の事業計画やスケジュールに沿って、効率的に予算確保を行う必要があります。				

事業の問題・課題	港湾事業はコストが大きいと、市の負担額も大きくなります。県の事業計画と整合が図れず、市の予算に不足が生じた場合、事業の進捗に影響が生じることがあります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	県事業の計画や予定に関する連絡、調整を密に行い、円滑な事業推進と早期の完成に向けて取組みます。
----------	--	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 大	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
D - 2	都市デザイン課

事務事業名	立地適正化計画策定業務	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-39	まちづくりの計画的推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	コンパクトなまちづくりとこれらの拠点を連携する交通ネットワークの形成	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	今後の急速な人口減少・高齢化により居住が低密度化し、将来的に住民の生活サービスの水準確保が困難になることが懸念されており、防災・減災を主流にした安全・安心なまちづくりが求められています。令和3年3月に策定を終えた臼杵市都市計画マスタープランなどと整合を図りながら、令和2年度から令和5年度の4カ年において本計画を策定し、コンパクトで持続可能なまちづくりを進めていきます。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
						R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	①	計画策定の進捗率(事業費ベース)	年度事業費(累計)/全体事業費	%	23	65	90	100	-	
	②									
	④									

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	計画策定の進捗率(事業費ベース)					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	年度事業費(累計)/全体事業費				
	5,539	3,630	内容	計画策定委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			23.0	65.0	90.0	100.0	-

事業対象	市民	今年度の成果	計画策定が終了しました。
------	----	--------	--------------

成果指標	指標名	計画策定の進捗率(事業費ベース)	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	年度事業費(累計)/全体事業費		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	計画策定の進捗率をほかに設定できないため	%	23	65	90	100	-

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	将来の人口減少や災害リスクを検討したまちづくり目標を設定し、進捗管理をするため目標達成に向けて効果あり。次回策定では類似のまちづくり計画を同時策定することで今後コスト縮減が図れると考えられるため改善の余地がある。	

事業の問題・課題	市の大きな方針変更の場合は計画を見直す必要がある。まちづくり計画の効果を発揮するため毎年の進捗管理と5年毎の施策の見直しが必要。	目標達成に向け、次年度以降の取組	なし
----------	--	------------------	----

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 大	完了	今年度、事務事業が完了しました。

番号	課名
D - 3	都市デザイン課

事務事業名	市営住宅管理代行業務		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ソフト
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-41	快適な住環境の確保	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	市営住宅の適正管理		
	関連施策名(施策コード)	-	-	

事業内容(経緯)	市営住宅条例に基づく管理運営業務、徴収業務等公営住宅の利用に関する業務及び設備保全業務に関し、平成26年10月より大分県住宅供給公社へ管理代行として業務委託しています。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	納入指導件数	電話督促・訪問督促件数	件	824	742	650	640	750
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	管理事務費削減率					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	管理事務費(人件費+事務費)の削減率				
	40,378	40,564	内容	管理代行事務委託料	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源			24.9	21.0	19.9	19.1	20.0

事業対象	市営住宅入居者	今年度の成果	電話督促・訪問督促を細やかにいき、長期滞納とならないよう取組んでいます。徴収率は高い水準を保持しています。
------	---------	--------	---

成果指標	指標名	住宅資料用の徴収率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	収納額/調定額		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由			%	99.84	99.71	99.77	99.90

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	専属機関による充実した管理運営体制の構築によって、事務の適正化・効率化が図られています。併せて使用料徴収率は高い水準を保持しています。	

事業の問題・課題	他部署との連携や特殊事例の対応などにより大分県住宅供給公社単独の対応が困難で、業務を委託することによる市の人役コストの削減効果が限定的なものになってしまう場合があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	大分県住宅供給公社と白杵市で毎月連絡調整会議を行い、業務区分の確認のほか相互協力し課題の早期対応・解決に努めます。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 中	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
D - 4	都市デザイン課

事務事業名	空き家対策事業(除却・適正管理)			新規・継続・単年	継続
				ソフト・ハード	ソフト
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-41	快適な住環境の確保		
	施策の課題(事務事業の実施目的)	空家の除却・適正管理により住環境を向上させる			
	関連施策名(施策コード)	-	-		

事業内容(経緯)	空家等対策特別措置法が平成27年5月に施行され、総合的な空き家対策の推進が求められている中、平成30年に「白杵市空家等対策計画」を策定し、防犯性・安全性・景観の向上等による住環境の改善を図っています。管理状態の悪い空家については所有者を調査して適正管理のお願いをし、更に状態が悪く倒壊等のおそれがある老朽危険空家等については除却費用の補助を行っています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	①	老朽危険空家等の除却件数	除却補助金の利用件数(各年)	件	13	18	14	10	10
	②	老朽危険空家等の調査件数	老朽危険空家の調査申込件数(各年)	件	31	47	40	24	30
	③								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	申請者1人あたりの補助金額					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費(千円)÷申請者数(人)				
	6,427	4,609	内容	補助金	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国1/2			486.8	431.8	459.1	460.9	500.0

事業対象	空き家所有者	今年度の成果	老朽危険空家等の除去については調査申込24件のうち3件(過年度に調査済の物件を合わせると10件)が補助金を利用して除却を行い、快適な住環境の確保に寄与できました。
------	--------	--------	---

成果指標	指標名	老朽危険空家等の除却件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	除却補助金の利用件数(累計)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	老朽危険空家の除却により周辺住民の住環境が向上するため		件	57	75	89	99

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	空家の相談が年々増加するなか、補助制度が除却の後押しとなり周囲の生活環境が改善されています。管理不全空家については相談件数が増すにつれ現地調査や相続調査が追いつかなくなっていく可能性があります。NPOとの連携や委託等を検討する必要があります。				

事業の問題・課題	空き家対策に係る諸制度の周知と併せて、空き家所有者の管理責任を第一義にとらえ、適正管理や放置されたままの空き家を発生させないための早期対応への意識の向上が求められます。著しく危険な状況にある空家については法律に基づく代執行手続きを進めることを検討する必要があります。また、相談件数の増加に伴い業務の逼迫が懸念されます。	目標達成に向け、次年度以降の取組	老朽危険空家等については補助制度等により除去を推進し、必要な場合は特定空家の認定と行政代執行、相続財産管理人制度の活用等による早期解決をめざします。また所有者による早期対応についての情報発信の強化やNPO等との連携や委託等を検討し、空き家が問題化する前の対策や相談の増加にも対応できる体制作りを検討していきます。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	強化	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。

番号	課名
D - 5	都市デザイン課

事務事業名	定住促進対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ソフト

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-41	快適な住環境の確保
	施策の課題(事務事業の実施目的)	移住定住しやすい住宅環境の整備	
	関連施策名(施策コード)	VI-18-39	まちづくりの計画的推進

事業内容(経緯)	「住み心地一番のまちづくり」を目指し、本市が抱える課題である「少子化」「人口減少」対策の重点施策として、若者、子育て世代の定住に向け、住環境の向上のため、道路や公園、宅地など様々な方面から計画的な改善に取り組んでいます。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	提案事業の検討数	施策や計画提案の検討数(累計)	件	-	7	9	9	15
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	事業計画あたりのコスト				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	年度事業費(百万) / 計画数			
	27,319	18,260	内容	計画策定委託	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般		-	-	6.8	10.2	

事業対象	市民及び移住希望者	今年度の成果	定住促進宅地の検討として野津地域は意向調査と測量設計に着手しました。また臼杵地域では高速インターチェンジ付近の基盤づくりの方針を検討しました。公園と狭あい道路については整備方針の検討を行いました。(野津地域事業分は繰越)
------	-----------	--------	--

成果指標	指標名	計画等の作成数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	事業計画等の作成に取り組んでいる件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	行動指標からの進捗を成果としたため		件	-	2	4	4

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	B A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	計画を作成し、着実に実施することで住環境の向上が見込まれると考えます。更に効果的効率的に事業を推進するため庁内連携の改善強化が必要です。

事業の問題・課題	計画検討と事業実施の担当課が異なるため、計画作成段階での担当部署との詳細な協議、市の施策や計画の調整が多くなり、苦慮している。	目標達成に向け、次年度以降の取組	庁内会議を活用し、計画がより効果的なものとなるように努めていきます。
----------	---	------------------	------------------------------------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	強化
施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。			

番号	課名
D - 6	建設課

事務事業名	地籍調査事業		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ソフト
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-19-44	情報基盤の整備	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	地籍調査事業の早期完了		
	関連施策名(施策コード)	-		

事業内容(経緯)	地籍調査事業とは、登記簿・字図等を基に、一筆ごとの土地について、正しい位置・境界・番地・地目・所有者・面積等を明確にし、新しい地図(地籍図)と台帳(地籍簿)を作成する業務です。臼杵地域は平成14年から、野津地域は平成7年から事業を実施しています。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	地籍調査実施面積(事業計画面積276.44km <sup>2</sup> )	調査実施面積	km <sup>2</sup>	38.43	40.30	40.38	40.41	40.50
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	-					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	-					
	8,000	13,500	内容	地籍調査費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国庫補助金、県補助金、一般財源			-	-	-	-	-

事業対象	土地所有者	今年度の成果	臼杵地域:大字江無田の一部:地籍図及び地籍簿の作成(H工程) 野津地域:大字白岩の一部:一筆地調査(E工程)
------	-------	--------	---

成果指標	指標名	地籍調査達成率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	調査済面積÷計画面積		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	土地所有者の高齢化により、土地の境界確定が難しくなるため、早期の実施が期待される		%	13.90	14.58	14.61	14.62

評価	有効性	効率性	評価の理由		
	B A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	C A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	経済効果が直ちに現れるものではありませんが、土地の確定は公益や権利の確定につながります。調査が完了するまでかなりの年数を要しますが、今後も継続して事業を実施していきます。		

事業の問題・課題	公図と現地の状況の相違・境界立会時点での隣接地所有者との主張の相違・現地立会人の世代交代による障害(境の認識不足)により、筆界確認が困難な場合があります。また、長期間にわたる継続事業でもあり、早期事業完了に向けて、国・県等の対応が急がれます。	目標達成に向け、次年度以降の取組	地区区長に、地域の土地の経緯等になるべく精通している方を推進委員に推薦して頂くよう、例年依頼しています。土地歴の浅い地権者に参考情報を提供して頂くことで、筆界未定件数の減少を目指します。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	施策に対する貢献度が大きいですが、効果・効率性に改善の必要があるため、現状の事務事業を強化します。
	やや遅延	貢献度 中	強化	

番号	課名
D - 7	建設課

事務事業名	泊ヶ内漁港施設機能強化事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	IV-11-21	安定的な水産業経営の充実
	施策の課題(事務事業の実施目的)	漁港施設整備費の増大	
	関連施策名(施策コード)	Ⅲ-8-14	防災・減災のための環境整備

事業内容(経緯)	台風等の高波による漁船や漁港施設への被害を防ぐために、漁港の機能強化を図ります。令和5年度は、消波ブロックの設置(L=27.0m)を行いました。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	漁港施設整備の進捗率	整備済事業費/計画事業費(累計)	%	68	79	89	100	
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	利用船数(漁業に使用する補助船含む)あたりにかかるコスト(千円)				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費÷利用船数(漁業に使用する補助船含む)			
	149,413	149,388	内容	工事請負費	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国県支出金、地方債、一般財源		2,238	2,236	2,230	2,230	-

事業対象	泊ヶ内地区漁業関係者	今年度の成果	台風等の高波被害から漁船や漁港施設を守り、水産業の安定経営実現に向けた取り組みができました。
------	------------	--------	--

成果指標	指標名	荒天時係留漁船等隻数				単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	(地元漁船隻数)-(他港への避難数+他港からの避難数)					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	荒天の度に他港に避難することにより出漁日数が減少するため				隻	67.00	67.00	67.00	67.00	-

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	整備により荒天時に他港への避難もなくなり、港内の静穏度も保たれている。				

事業の問題・課題	事業は完了したが、今後、ほかの施設の老朽化対策が課題となる。	目標達成に向け、次年度以降の取組	-
----------	--------------------------------	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	順調	貢献度 大	完了 今年度、事務事業が完了しました。

番号	課名
D - 8	建設課

事務事業名	生活環境改善事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画 (施策評価) との関連	施策名 (施策コード)	VI-17-36	適正な道路整備及び維持管理の推進
	施策の課題 (事務事業の実施目的)	主要道路以外に生活に密着した道路において整備が必要な道路の増加	
	関連施策名 (施策コード)	VII-21-51	交通安全対策の推進

事業内容 (経緯)	市民の生活に密着した里道・水路の要望に対し柔軟に対応するため、生活改善事業として里道・水路の補修を実施しました。			
--------------	--	--	--	--

行動指標 (実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
①	事業実施箇所数	実施箇所数	箇所	15	10	28	17	17
②								
③								
④								

基本項目 コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1件当たり事業費(千円)					
	前年度 (R4)	当該年度 (R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	単年度実施事業費÷補修工事実施数				
	11,766	10,784	内容	工事請負費	コスト指標 (単位当たりの費用)	数値の推移	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
			財源	一般財源			812	799	420	634	666

事業対象	要望地区住民	今年度の成果	令和5年度は要望箇所のうち17箇所において事業を行いました。
------	--------	--------	--------------------------------

成果指標	指標名	単年度事業進捗率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	単年度実施事業費÷単年度事業費		R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 計画
	指標設定の理由		%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

評価	有効性	効率性	評価の理由				
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	里道・水路は市民生活に密着しており、実施することで構造物の長寿命化が図れ、利用者が安全に利用できます。				

事業の問題・課題	里道・水路に対して要望が多く対応しきれないのが現状です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	現地調査により、施設の危険性や利用頻度により優先度を定め、補修を進めていきます。
----------	------------------------------	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 中	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
D - 9	建設課

事務事業名	道路補修事業				新規・継続・単年	継続				
					ソフト・ハード	ハード				
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-36	適正な道路整備及び維持管理の推進							
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-								
	関連施策名(施策コード)	VII-21-51	交通安全対策の推進							
事業内容(経緯)	市道約629kmにおいて、区長及び市民の方からの要望や通報を受け、緊急性の高い道路や側溝の補修工事を実施しました。									
行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
	①	実施事業費		千円	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	
	②	点検パトロール回数		回	4	4	4	4	4	
	③	補修工事実施数		件	88	106	126	143	130	
	④									
基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市道1km当り事業費(千円)				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	単年度実施事業費÷市道延長(km)				
	101,028	92,691	内容	工事請負費	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源		146	134	161	147	143
事業対象	市民全体		今年度の成果	安全で快適な生活環境の確保のため、地区からの要望や突発的な破損等に随時対応することで、より安全な通行やスムーズな道路排水を確保することができます。						
成果指標	指標名	単年度事業進捗率			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	単年度実施事業費÷単年度事業費				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	-			%	100	100	100	100	100
評価	有効性		効率性		評価の理由					
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	道路の安全確保や市民からの要望等に迅速に対応でき快適性及び安全性が維持できます。また、部分的な補修を実施することにより大規模な改修までの期間を短らせることができます。					
事業の問題・課題	道路の老朽化が進み、要望等も多数あり、対応に時間を要する案件も増えています。			目標達成に向け、次年度以降の取組	道路施設の老朽化による不良個所の増加及び工事における人件費・資材単価の高騰に伴い、予算を増額して事業進捗の向上を図る必要があります。					
課長評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針					
	概ね順調		貢献度 大		向上		施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
D - 10	建設課

事務事業名	市道新設改良事業(過疎債事業)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-36	適正な道路整備及び維持管理の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	主要道路以外に生活に密着した道路において整備が必要な道路の増加	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	主として基幹的な市道の整備について、市の財源負担の軽減ができる過疎債を活用して整備を行っています。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画				
	①	整備済延長(単年度)	事業費による換算延長	m	1,133	1012	734	791	1155
	②								
	③								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市道1km当り事業費(千円)				
		前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	単年度実施事業費÷市道延長(km)			
	114,600	120,545	内容	委託料、工事請負費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	財源	地方債、一般財源	275	245			182	192	280		

事業対象	道路利用者	今年度の成果	交流の流れが円滑になり、歩行者の安全を確保するとともに、地域間の交流・連携を強めることができます。また、法面の補修を計画的に行うことで、災害を未然に防ぐことにも繋がります。
------	-------	--------	--

成果指標	指標名	道路改良率					単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	累計整備済延長÷全体計画延長(18,654m)						R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	-					%	55.9	61.3	65.2	69.5	75.7

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	改良整備を実施することにより、利用者が安全に通行でき、交通の利便性も向上しています。				

事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要な路線がありますが、計画的に取得が進まずに事業の進捗が停滞している路線もあります。今後は、さらに関係者への協力をお願いしていく必要があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	用地の協力が得られる箇所または路線を優先的に整備することにより、工事の早期着工・完成を目指します。
----------	---	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
D - 11	建設課

事務事業名	社会資本整備総合交付金事業による市道改良事業		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-36	適正な道路整備及び維持管理の推進	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-		
	関連施策名(施策コード)	-		

事業内容(経緯)	臼杵市の市道には、幅員狭小・歩道未整備・道路施設の老朽化等により、道路利用者の安全性の確保が必要とされている路線があります。そこで社会資本整備総合交付金を活用し、地域の安全環境を整えていきます。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	①	整備済延長(単年度)	事業費による換算延長	m	1,081	1,339	451	650	1,008
	②								
	④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市道1km当り事業費(千円)				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	単年度実施事業費÷市道延長(km)				
	220,778	307,772	内容	委託料、工事請負費、公有財産購入費、補償補填及び賠償金	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国県支出金、地方債、一般財源		858	1013	351	489	759

事業対象	道路利用者	今年度の成果	交通の流れが円滑になり、歩行者の安全を確保し、地域間の連携を強めることができました。また、橋梁の補修を計画的に行うことで橋梁の長寿命化が図られました。
------	-------	--------	---

成果指標	指標名	道路改良率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	累計整備延長÷全体計画延長(12,277m)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	-		%	54.6	65.5	69.2	74.4

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	道路整備により、移動時間の短縮・交通事故の減少などの効果が発揮できています。また、工法検討を行いながら、工事の円滑な実施及びコスト削減を行っています。				

事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早期完成を目指します。
----------	---	------------------	--------------------------------------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
D - 12	建設課

事務事業名	市道新設改良事業(地方道路整備事業)	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-36	適正な道路整備及び維持管理の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-	
	関連施策名(施策コード)	-	

事業内容(経緯)	幹線道路に接続する地域内の道路整備を行うことにより、市内全域の交流を促進し地域の一体感の確立と活性化を図ります。平成27年度より地域間バランスを考慮しながら本事業により市道の整備を行っています。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	①	②			R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	整備済延長(単年度)		事業費による換算延長	m	421	104	288	380	443

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市道1km当り事業費(千円)				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	単年度実施事業費÷市道延長(km)			
	32,498	42,850	内容	委託料、工事請負費、補償補填及び賠償金	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	地方債、一般財源		76	20	52	68	79

事業対象	道路利用者	今年度の成果	令和5年度は、7箇所を整備に取り組みました。
------	-------	--------	------------------------

成果指標	指標名	道路改良率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	累計整備済延長÷全体計画延長(23,557m)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	-	%	88.3	88.7	89.9	91.5	93.4

評価	有効性	効率性	評価の理由
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	地域内の市道は、幅員の狭い路線が多く、緊急車両の通行にも支障がありましたが、改良することにより防災面での効果も向上しています。また、用地を寄付して頂き事業を実施しており、効率的に整備を行っています。

事業の問題・課題	地区内市道は、幅員が狭い等で日常生活に支障を及ぼしている路線も数多くあります。各地区からの要望も多く十分な対応ができていないのが現状です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	各路線の特徴を生かした整備を行うことで、コストの縮減化を図り、少しでも多くの市道整備ができるように事業を進めていきます。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
D - 13	建設課

事務事業名	市道新設改良事業(辺地債事業)		新規・継続・単年	継続
			ソフト・ハード	ハード
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-17-36	適正な道路整備及び維持管理の推進	
	施策の課題(事務事業の実施目的)	-		
	関連施策名(施策コード)	-		

事業内容(経緯)	平成20年度から「辺地に係る公共的施設の総合整備計画」に基づき、対象となる地域内の市道整備を実施しています。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
					R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	①	道路改良率	累計整備済延長÷全体計画延長(5,490m)	%	71.6	72.7	73.9	75.6	77.4
	②								
	④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	市道1km当り事業費(千円)					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	単年度実施事業費÷市道延長(km)				
	9,573	14,997	内容	工事請負費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	地方債、その他、一般財源			12	16	15	24	24

事業対象	道路利用者	今年度の成果	令和5年度は、市道1路線において工事を実施しました。今後も市の財政負担の軽減ができる辺地債事業を活用して道路整備を行っていきます。
------	-------	--------	---

成果指標	指標名	道路改良率			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	累計整備済延長÷全体計画延長(5,490m)				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	-			%	71.6	72.7	73.9	75.6	77.4

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	工法検討を行いながらコスト縮減化した道路整備により、交通の利便性が向上し、緊急車両の通行が容易になったり、地域の活性化に役立ちます。				

事業の問題・課題	道路整備に伴い、公共用地の取得が必要とされる路線がありますが、計画的に用地取得が進まずに事業の進捗率が停滞している路線も存在します。今後、さらに関係者へ協力をお願いしていく必要があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	用地未取得箇所は後年施工とし、可能箇所を優先施工し早期完成を図ります。また、用地協力が得られていない箇所についても引き続き丁寧な交渉に努めます。
----------	--	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	やや遅延	貢献度 中	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
D - 14	建設課

事務事業名	大分県市町村営急傾斜地崩壊対策事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	Ⅲ-8-14	防災・減災のための環境整備
	施策の課題(事務事業の実施目的)	土砂災害を防止するため急傾斜地崩壊防止対策の継続的な実施	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	県事業の対象とならない1戸以上5戸未満の区域において、急傾斜地の土砂災害を未然に防止し、住民の人命や家屋を守るため、対策工事を実施します。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画				
	①	累計整備戸数	平成13年度からの累計	戸	32	34	37	42	45
	②								
	③								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	整備率(%)				
		前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	11 一般会計		説明・算式・引用	整備戸数/要望戸数(要望戸数:61戸)			
	25,359	59,227	内容	委託料、工事費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	県支出金、地方債、受益者分担金、一般財源			52.5	55.7	60.7	68.9	73.8

事業対象	市民の生命と財産	今年度の成果	急傾斜危険地域の崩壊対策工事を行うことで、土砂災害等を未然に防止し、住民の生命及び家屋を守ることが出来ました。(令和5年度実績:5箇所)
------	----------	--------	--

成果指標	指標名	整備戸数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	整備戸数/要望戸数(要望戸数:61戸)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	臼杵市営急傾斜地崩壊対策事業実施要綱第8条により、受益者は市長に要望書を提出する必要があるため。	戸	32	34	37	42	45

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	事業を有効的に行うため、毎年、事業計画の見直しを行っています。また、経済性を考慮した工法検討を行うことで、コストに対して見合った効果を得ることが出来ます。	

事業の問題・課題	急傾斜地で崩壊の危険性のある箇所は、要望箇所以外にも多くあり、十分な対策ができていないのが現状です。	目標達成に向け、次年度以降の取組	緊急度及び優先度を考慮し対応をすすめ、対策工事が完了していない箇所においては、避難の指標となる県の安全安心メール等の活用を呼びかけ、ソフト面での充実を図っていきます。
----------	--	------------------	---

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 大	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

臼杵市 事務事業評価シート

(令和5年度実施事業)

番号	課名
D - 15	建設課

事務事業名	臼杵市総合公園園路照明灯更新事業	新規・継続・単年	新規
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-40	魅力ある公園整備と適正な維持管理
	施策の課題(事務事業の実施目的)	公園施設の日常的な安全性の確保	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	臼杵市総合公園内のソーラー照明が経年劣化による蓄電能力の低下により、不点灯や点灯時間が著しく短い状況となっており、夜間の公園の安全性が低下しているため、令和5年度時点で不具合が確認されているソーラー照明灯12基について計画的にリノベーションを実施します。令和5年度は、お花見広場において、3基のリノベーションを行いました。令和6年度は4基、令和7年度は5基を予定しています。			
----------	---	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	ソーラー照明灯リノベーション数		基	-	-	-	3	4
②								
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1基あたりのリノベーション費用(千円)				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計		説明・算式・引用	事業費÷リノベーション基数			
	-	2,481	内容	工事請負費	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	一般財源		-	-	-	827	950

事業対象	公園利用者	今年度の成果	臼杵市総合公園花見広場内の夜間における安全性が確保できました。
------	-------	--------	---------------------------------

成果指標	指標名	ソーラー照明灯リノベーション率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	ソーラー照明灯リノベーション数÷不具合が確認されているソーラー照明灯数(12基)		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	公園施設の適正な維持管理の実施に寄与しているため		基	-	-	-	25%

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	既設照明灯の基礎や柱を再利用することで経済性に配慮しており、周辺施設との兼ね合いから最も夜間に暗くなるエリアから効率的に実施している。	

事業の問題・課題	既設照明灯の基礎や柱を再利用することで経済性を確保しているが、近年の物価上昇により材料費が高騰しており、年々1基あたりの事業費が増加傾向にある。	目標達成に向け、次年度以降の取組	日常管理も含め、適正な公園の維持管理に努める。
----------	--	------------------	-------------------------

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	概ね順調	貢献度 中	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
D - 16	上下水道課

事務事業名	浄化槽設置費補助事業(個人設置)			新規・継続・単年	継続					
				ソフト・ハード	ソフト					
総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-43	生活排水処理対策・浸水対策の推進							
	施策の課題(事務事業の実施目的)	公共用水域の水質保全や生活環境の改善等を推進するためには、浄化槽設置の推進に努めることで生活排水処理率や接続率の向上が必要です。								
	関連施策名(施策コード)	VI-18-41	快適な住環境の確保							
事業内容(経緯)	公共用水域の水質保全・生活環境の改善などを目的とした生活排水対策の一環として補助事業を行っています。平成27年度からは県の制度を活用し、補助額上限についても増額としています。下水道等の集合処理施設の整備計画がない地域で、単独浄化槽又は汲み取り便槽からの合併処理浄化槽へ設置換えを行う家庭に対して、設置した浄化槽の人槽に応じて予算の範囲内で補助金を交付しています。									
行動指標(実施状況)	R		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
	①	浄化槽設置基数	補助金を活用して設置した浄化槽の累積設置基数	基	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	
	②	浄化槽設置普及促進活動の回数	浄化槽を普及するための啓発活動の実施回数	回	2	2	2	1	3	
	③									
	④									
基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	1基あたりの費用				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	一般会計	説明・算式・引用	補助額合計(事業費計)÷設置基数				
	94,221	95,548	内容	浄化槽設置費補助金	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国県支出金、一般財源		546,043	852,582	888,877	936,745	92,032
事業対象	下水道等集合処理施設の区域外の地域住民		今年度の成果	合併処理浄化槽を設置することにより、生活排水を処理し、公共用水域の水質保全・生活環境の改善が図られます。令和5年度は102基分に対して補助金を交付しました。						
成果指標	指標名	浄化槽人口普及率			単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	浄化槽処理人口÷行政人口				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	単独処理浄化槽および汲み取り便槽から合併処理浄化槽への転換を促進し、合併処理浄化槽人口の向上を目指します。			%	16.98	17.68	19.03	19.65	20.52
評価	有効性		効率性		評価の理由					
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	補助金制度により、単独処理浄化槽および汲み取り便槽から合併処理浄化槽へ転換が促進され、公共用水域の水質保全・生活環境の改善が図られています。また、浄化槽は地震にも強く、適正な維持管理を行えば、下水道と同程度の処理能力を有しています。					
事業の問題・課題	浄化槽の設置替え工事をするにあたり、補助金額を超える費用等は個人負担であるため、実施について各家庭では慎重になります。今後も、水質汚濁防止のために生活排水処理が必要であることを広報し、転換の必要性を広く周知していく必要があります。			目標達成に向け、次年度以降の取組	浄化槽補助金制度についての広報をするため、市報やHPなどによる積極的な啓発、広報活動を行います。また、実際に工事を行う業者に対しても、補助金制度の説明や積極的な活用をお願いします。					
課長評価	進捗状況		施策への貢献度		今後の方針					
	順調		貢献度 中		向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。					

番号	課名
D - 17	上下水道課

事務事業名	水道施設・老朽管等更新事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-42	安全な水の管理・提供
	施策の課題(事務事業の実施目的)	全国的な課題である水道施設・水道管の老朽化、耐震化対策は本市においても急務であり、安心・安全な水を安定的に供給するためには、水道施設・水道管の老朽化・耐震化対策を効果的に進めていく必要があります。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	アセットマネジメント更新計画や水道事業経営戦略に基づく施設や管路の更新・耐震化について、県道・市道等改良工事に伴う水道管移設工事や水道事業所独自の事業として水道施設改良事業を実施します。中でも、水道管路よりも水道施設の老朽化が進んでおり井村配水池の更新が急務となっているため、井村配水池耐震化更新事業の令和9年度完成を目指し優先的に取り組んでいます。
----------	---

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
①	水道施設の耐震化率	耐震化済施設÷水道施設数	%	19	19	19	20	21
②	事業実施延長(単年度施工延長)	単年度に施工した管路延長	m	1604	1310	1225	1476	2000
③								
④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	管路更新にかかるメーター単価				
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	水道会計		説明・算式・引用	老朽管工事費(千円)÷管路延長(m)			
	108,578	136,669	内容	工事費	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	起債		34.4	40.9	63.3	54.5	60.0

事業対象	水道施設・管路の更新・耐震化	今年度の成果	県事業の遅れによる一部事業を除き県道・市道等改良工事に伴う水道管移設工事や水道施設改良事業を実施しました。特に、井村配水池耐震化更新事業については、造成工事を完了させ配水池基礎工事等を発注しました。
------	----------------	--------	---

成果指標	指標名	水道本管漏水修繕工事件数	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	年間の水道本管の工事件数		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	老朽管の効果的な更新を行うことで本管漏水の件数の減少が期待できる	件	310	223	235	190	200

評価	有効性	効率性	評価の理由	
	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	地震等災害時の断水被害からライフラインとしての重要性が再認識され、上水道の早期復旧や耐震化・更新が重要となっています。しかし、国道整備等の他事業との調整や厳しい経営状況から財源確保に十分な検討が必要です。	

事業の問題・課題	更新計画作成時において管路より施設の老朽化が進んでいることが判明したものの、厳しい経営状況から管路・施設の同時更新は困難となっています。施設の更新を優先せざるを得ず老朽管路の更新に遅れが生じています。	目標達成に向け、次年度以降の取組	全国的にも水道施設・管路の老朽化対策や耐震化の重要性が増しており、本市でも他事業との調整や財源確保に留意し計画的な施設・管路の更新(耐震化)事業に取り組みます。特に、井村配水池耐震化更新事業の早期の完成を目指します。
----------	--	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針
	概ね順調	貢献度 大	向上
施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。			

番号	課名
D - 18	上下水道課

事務事業名	公共下水道雨水整備事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-43	生活排水処理対策・浸水対策の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	内水被害の軽減に向けた雨水(浸水)対策については市民の生活を守るために重点的に浸水対策を進めていかなければなりません。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	近年甚大な水害が全国各地で頻発しています。本市においても遊水機能を有する農地の宅地化等により貯留能力の減少や雨水流出量の増大、台風等の豪雨により、市内の各所において、度々、浸水被害が発生しています。気候変動により更なる降雨量の増大や水害の頻発化・激甚化が懸念されていることから、計画的に雨水整備を進め、浸水被害の軽減を図っています。			
----------	--	--	--	--

行動指標(実施状況)	指標名		説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画				
	①	浸水対策事業費の単年度進捗率	浸水対策単年度事業費÷浸水対策総事業費	%	6.3	11.1	11.5	5.8	9.9
	②								
	④								

基本項目	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	公共下水道区域人数 1人当たりの費用(千円)					
	前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	下水道事業会計		説明・算式・引用	総事業費/公共下水道区域人口				
	186,585	94,415	内容	請負工事費、委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国庫補助金、市債、一般財源			7.5	13.3	13.9	7.1	33.2

事業対象	下水道整備計画	今年度の成果	市浜地区において、今年度から狭間第4雨水幹線の整備に着工しました。これまで整備した狭間第3雨水幹線や狭間第一調整池、あすとびあ調整池と併せて機能することで、浸水常襲地域に対し一部流量カットが可能となり浸水被害の軽減が図られます。
------	---------	--------	--

成果指標	指標名	浸水対策進捗率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	浸水対策累計事業費÷浸水対策総事業費		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	公共下水道区域内の市浜地区における浸水被害軽減の向上を目指します。		%	24.70	35.80	47.30	53.10

評価	有効性	効率性	評価の理由		
	A A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	H29、H30の2年連続の台風により市内各所で浸水被害が発生したことから、雨水整備は市民の生命財産を守る重要な事業であると考えています。整備にあたっては、事業費に対して浸水軽減効果が大きい整備を選定することとしています。		

事業の問題・課題	雨水整備は当該地区内の雨水幹線ごとに複数の施設整備が必要となりますが、多額の事業費と長期的な事業期間を要するため、シミュレーションによる浸水軽減効果と事業費を勘案し、効果的な対策から段階的に実施する必要があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	雨水全体計画に基づき、効果の高い浸水対策整備から順次進めていきます。まずは、狭間第4雨水幹線整備の早期完成を目指すとともに、新地第3雨水幹線整備の検討や新地第2雨水ポンプ場等の整備の検討を進めていきます。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	
	やや遅延	貢献度 大	向上 施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。

番号	課名
D - 19	上下水道課

事務事業名	公共下水道汚水整備事業	新規・継続・単年	継続
		ソフト・ハード	ハード

総合計画(施策評価)との関連	施策名(施策コード)	VI-18-43	生活排水処理対策・浸水対策の推進
	施策の課題(事務事業の実施目的)	公共下水道の面整備が概成しているため今後は下水道施設の適正な維持管理及び老朽化・耐震化事業に取り組む必要があります。	
	関連施策名(施策コード)	-	-

事業内容(経緯)	海や河川といった公共水域の水質保全・生活環境の改善のため、生活排水処理対策については下水道の面整備が概成していることから集合処理施設エリアの接続促進と下水道施設の適正な維持管理に努めます。また、老朽化した集合処理施設については長寿命化計画並びにストックマネジメント計画により修繕及び改築等を効率的に行います。
----------	--

行動指標(実施状況)	指標名	説明・算式・引用	単位	数値の推移(総合計画の期間内)					
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	
	①	公共下水道の接続率	接続人口÷接続可能人口	%	84.6	85.1	85.6	86.4	87.0
	②								
	④								

基本項目	コスト	事業費の経緯(千円)		当該年度の事業費の内容		指標名	公共下水道接続人数 1人当たりの費用(千円)				
		前年度(R4)	当該年度(R5)	会計	下水道事業会計		説明・算式・引用	単年度事業費/公共下水道接続人数			
	441,757	64,892	内容	請負工事費、委託費	コスト指標(単位当たりの費用)	数値の推移	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
			財源	国庫補助金、市債、一般財源			3.5	5.2	33.0	4.8	25.7

事業対象	公共下水道区域	今年度の成果	訪問活動等による接続促進で集合処理施設エリアの接続件数は増加しています。また、地震及び津波対策の効果が期待できる白杵終末処理場管理棟新築工事については、詳細設計を行い来年度から実施することとしています。
------	---------	--------	---

成果指標	指標名	生活排水処理率	単位	数値の推移(総合計画の期間内)				
	説明・算式・引用	生活排水処理施設整備人口÷行政人口		R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画
	指標設定の理由	海や河川の水質を保全を目的とした、下水道への接続及び合併処理浄化槽の設置による生活排水処理施設整備人口の向上を目指します。		%	69.10	70.10	71.51	72.51

評価	有効性		効率性		評価の理由				
	A	A:期待通り効果あり B:期待より効果少ない C:効果なし	A	A:効率的に実施 B:改善の余地あり C:効率性が低い	下水道事業は生活環境の改善や水質保全に有効ですが、地形や人口密度によっては浄化槽で個別処理の方がコスト的に優位性があるため、今以上の面整備は行わず接続促進と適正な維持管理に努め効率的に運営していくこととしています。				

事業の問題・課題	公共下水道事業は昭和53年度に着手し供用開始から39年以上経過しているため施設の老朽化が進んでいます。白杵終末処理場・下水道污水管・污水ポンプ場等の更新をストックマネジメント計画に基づき実施して行く必要があります。	目標達成に向け、次年度以降の取組	訪問活動等による集合処理施設エリアの接続促進を継続実施するとともに、今後、白杵終末処理場、下水道污水管、污水ポンプ場等の更新をストックマネジメント計画に基づき実施していきます。
----------	---	------------------	--

課長評価	進捗状況	施策への貢献度	今後の方針	
	順調	貢献度 大	向上	施策に対する貢献度が大きく、効果と効率性があるため、現状の通り今後も事務事業を維持向上します。